

タイの仏教寺院における 社会福祉活動の実態に関する定量的検証 ーチェンマイ県の寺院に対する質問紙調査からー

安藤徳明

(2017 年度 BARC 公募研究員)

目次

1. はじめに
2. 研究の方法
3. 研究の結果
4. おわりに

【キーワード】

仏教 寺院 社会福祉活動 タイ 質問紙調査

1. はじめに

タイの仏教は、インドからスリランカを経由して伝来した上座部仏教である。国教として仏教が定められているわけではないが、タイの人口の 94.6%が仏教徒であり、国家仏教事務局 (National Office of Buddhism) によれば、2015 年時点で、39,882 の寺院と 298,580 人の僧侶が数えられる¹。タイでは、日本のような檀家制度がないため、世帯が寺院に帰属せず寺院と地域社会が様々な関係を持ってきた。西洋社会を起源とするところのいわゆるソーシャルワークの代替的な機能を担ってきたのも寺院による社会福祉活動である。具体的には、寺院がコミュニティセンターの役割を果たしたり、僧侶がインフラストラクチャーなどの社会資本の整備を行ったりすることで、人々の福祉を向上させてきた。1970 年代頃から活躍した開発僧²と呼ばれる僧侶たちの活動は、その最たるものである。これまで、タイの寺院の社会福祉活動については、開発僧を巡る議論の中で論じられることが主流であった [Darlington 1990、櫻井 2008 など]。また、近年では、そうした活動を寺院と地域社会とのソーシャル・キャピタルとして捉える試みがあり、ターミナルケア、精神修養、洪水の被災者支援などの様々な観点から事例研究が行われた [佐々木・櫻井 2013、浦崎 2013、ジュタティップ・櫻井 2013 など]。

しかしながら、こうして質的なアプローチによる研究が蓄積する一方で、量的なアプローチにより寺院の社会福祉活動の実態を描き出す研究は、まだ十分にはなされていない。後者の研究は、次の点において意義があると考えられる。それは、タイにおける一般的な寺院の社会福祉活動の程度を知ることができる、という点である。先行研究で示された事例は、特定の寺院の特定の活動に焦点を当てて議論が展開されることが多く、社会福祉活動を熱心に行う、いわゆる *good practice* と言える事例である。つまり、タイにおける寺院の社会福祉活動としては、断片的な姿であり、全体像を示すものではない。そこに描かれない大多数の寺院の実態を調査してはじめて一般的な寺院の姿を論じることができる。そして、それは同時に、*good practice* が全体の中でどのような位置付けにあるのかを知るための営みでもある。これは、*good practice* の代表性の問題であると言える。全体を知ること、熱心な社会福祉活動を行う個々の寺院の位置付けも明確になるだろう。

したがって、本稿では、タイにおける一般的な寺院による社会福祉活動の描写と *good practice* の普遍性の検証を目的として、寺院の社会福祉活動の実態を量的なアプローチにより実証する。

2. 研究の方法

2.1 調査の対象及び手法

寺院の社会福祉活動の実態を理解するために、本稿では寺院に対する質問紙調査を実施する。調査対象となるのは、タイ北部に位置するチェンマイ県の全ての寺院である。人口、面積ともにタイ北部最大であるチェンマイ県は、観光関連産業が発達しており、国境を接す

るミャンマー（ビルマ）の要素が融合した独自の文化が重要な観光資源となっている。県内の寺院の総数は 1,337 であり、この数は、タイ 77 県の中で 6 番目に多い³。

この地域の僧侶たちが様々な社会的活動を始めようになった背景には、1960 年代半ば以降のタイ政府による反共政策の影響が存在する。すなわち、近隣諸国による共産主義勢力の台頭を恐れたタイ政府が、国境地域を中心として国民統合を図る過程でサンガ⁴の僧侶たちを開発政策に動員したのである [Keyes 1971、Keyes 1975]。

タイの地方行政制度には、県 (*Changwat*)、郡 (*Amphoe*)、町 (*Tambol*)、村 (*Muban*) という順に細分化される行政区分が存在し、チェンマイ県には 25 の郡が置かれている。図 1 は、チェンマイ県の 25 の郡ごとの寺院数を示したものである。調査は、これら 1,337 ヶ寺を対象とした郵送調査法により行う。回収は、同封した返信用封筒にて各自で投函してもらうように依頼し、質問紙の返送により調査への参加同意が得られたとみなした。調査期間は、2017 年 1 月 20 日から 2017 年 2 月 20 日までである。

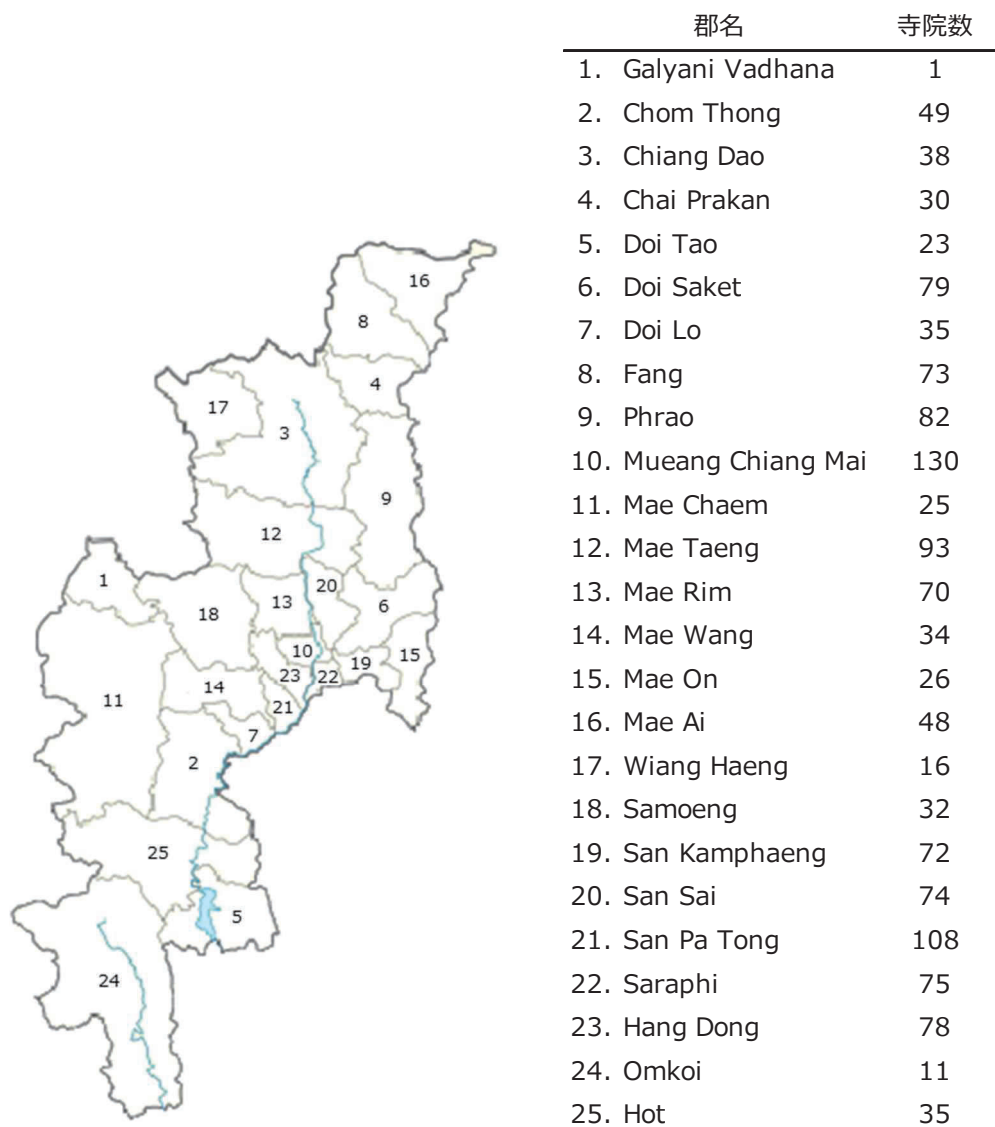


図 1 チェンマイ県の地図と各郡の寺院数の内訳

2.2 質問項目

質問項目において明らかにしなくてはならないのは、寺院によりどのような社会福祉活動がどれほど行われているか、という点である。ここでは、寺院の活動領域を、社会福祉に関する活動、教育に関する活動、宗教に関する活動とし、これらの3つの領域の下位項目にあたる活動（表1）を行っているかどうかを、リッカート・スケールにより計測する。回答における選択肢の数は6つで、次の通りである。

1. 行っていない
2. 行ってはいるが全く力を入れていない
3. 行ってはいるがそんなに力を入れていない

4. どちらともなく行っている
5. まあ力を入れて行っている
6. 非常に力を入れて行っている

表 1 寺院の 3 つの活動領域と各活動の下位項目

	社会福祉に関する活動	教育に関する活動	宗教に関する活動
1	麻薬中毒者に対するケア	学校の所有運営	人々への説法
2	HIV/AIDS罹患者に対するケア	託児所の運営	人々からの悩み相談、生活指導
3	物品日用品の貸し出し	麻薬に関する啓発活動	祈祷
4	リサイクルの仲介	HIV/AIDSに関する啓発活動	瞑想の指導
5	遺児の保護	日曜学校	仏教に関する本の出版
6	高齢者の保護	サマースクール	説法が収録されたCDの作成
7	難民の保護	僧のパーリ語教育	外部の講演会への登壇
8	障害者の保護	僧の仏教の教育	冠婚葬祭等の儀式
9	インフラ整備	一般中等教育での仏教教育	お守りやamuletの販売
10	伝統医療行為	奨学金の支給	お堂の建設
11	争いごとの調停	職業訓練	
12	終末期のケア		
13	環境保護		
14	米銀行、水牛銀行		
15	人々への集会場所の提供		
16	動物の保護		

質問紙には、上記の項目に加えて、寺院の基本的な情報について尋ねる項目も存在する。質問紙の内容を検討する過程では、バンコク近郊の寺院 10 ヶ寺を対象に予備調査を実施し、質問項目の加除に加え、文章表現の一部や質問の順番などの修正を行った。

3. 研究の結果

3.1 寺院の基本的な情報

寺院による社会福祉活動の実態についての結果を見る前に、分析の対象となる寺院の基本的な情報について述べる。

分析の対象となる寺院は、チェンマイ県に位置する全ての寺院（1,337 ヶ寺）に質問紙を送付し、返送のあった 232 の寺院である。質問紙の回収率は、17.4%であった。

表 2 は、寺院の教派の内訳である。在来派のマハーニカーイ派が 213 ヶ寺（91.8%）で、少数派のタンマユット派が 19 ヶ寺（8.2%）であった。全寺院における内訳は、マハーニカーイ派が 1,293 ヶ寺（96.7%）に対してタンマユット派が 44 ヶ寺（3.3%）であるので、回

収率という観点から両派を見ると、マハーニカーイ派は 16.5%と全体の回収率と同水準であるが、タンマユット派は 43.2%と高い水準にあった。

表 2 寺院の教派の内訳

n=232		
教派	度数	%
マハーニカーイ派	213	91.8
タンマユット派	19	8.2

表 3 は、僧侶の数の基本統計量である。

僧侶の数は、1 人または 2 人という寺院が多く、どちらも全体の 20%程度である。90%の寺院が 10 人以下である一方で、最も在籍数が多い寺院は 78 人であった。無回答の 7 ケ寺を除くと、僧侶の数の平均値は 5.2、中央値は 3.0 であった。

表 3 僧侶の数の基本統計量

		n=232		n=225				
		度数	%	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
僧 侶 の 数	0人	1	0.4	5.2	8.8	0	78.0	3.0
	1人	43	18.5					
	2人	47	20.3					
	3人	33	14.2					
	4人	17	7.3					
	5人	31	13.4					
	6人	17	7.3					
	7人	9	3.9					
	8人	3	1.3					
	9人	4	1.7					
	10人	6	2.6					
	11人以上	14	6.0					
	無回答	7	3.0					

表 4 は、見習い僧（サーマネーン⁵）の数の基本統計量である。

見習い僧の数は、78 ケ寺が 0 人で最も多く、全体の約 45%の寺院が 1 人～5 人である。無回答の 7 ケ寺を除くと、見習い僧の数の平均値が 4.9 に対して、最大値は 181.0 であった。見習い僧の数の代表値としては、中央値の 2.0 がより適切であることが分かる。

表 4 見習い僧の数の基本統計量

		n=232		n=225				
		度数	%	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
見 習 い 僧 の 数	0人	78	33.6	4.9	14.6	0	181.0	2.0
	1人	29	12.5					
	2人	22	9.5					
	3人	18	7.8					
	4人	18	7.8					
	5人	18	7.8					
	6人	5	2.2					
	7人	7	3.0					
	8人	4	1.7					
	9人	4	1.7					
	10人	4	1.7					
	11人以上	18	7.8					
	無回答	7	3.0					

表 5 は、女性修行者（メーチャー⁶）の数の基本統計量である。

女性修行者の数は、0 人が 207 ヶ寺と群を抜いて多く、全体の約 90%を占めている。無回答の 7 ヶ寺を除くと、女性修行者の数の平均値は 0.4、中央値は 0 であり、ほとんどの寺院には女性修行者が在籍していないことが分かる。

表 5 女性修行者の数の基本統計量

		n=232		n=225				
		度数	%	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
女 性 修 行 者 の 数	0人	207	89.2	0.4	3.1	0	45.0	0
	1人	7	3.0					
	2人	4	1.7					
	3人	3	1.3					
	4人	1	0.4					
	5人以上	3	1.3					
	無回答	7	3.0					

表 6 は、所有する土地の広さの基本統計量である。

全体のおよそ 3 分の 2 の寺院が 10 ライ⁷未満の広さの土地を所有している。無回答の 16 ヶ寺を除くと、平均値が 18.8 に対して、標準偏差が 75.2 と分布にかなりばらつきがあることを示している。

表 6 所有する土地の広さの基本統計量

		n=232		n=216				
		度数	%	平均値	標準偏差	最小値	最大値	中央値
土地の広さ	1ライ以上5ライ未満	80	34.5	18.8	75.2	1.0	1000.0	6.0
	5ライ以上10ライ未満	69	29.7					
	10ライ以上15ライ未満	33	14.2					
	15ライ以上50ライ未満	21	9.1					
	50ライ以上100ライ未満	7	3.0					
	100ライ以上	6	2.6					
	無回答	16	6.9					

図 2 は、寺院の 1 か月の平均寄付金収入額を示したものである。

約 80%の寺院は、1 か月に 2 万バーツ未満の寄付金収入である。国家統計局（National Statistical Office）が 2017 年 1 月～6 月に行った調査によると、タイの世帯当たりの平均収入額は、月 2 万 6,973 バーツである⁸。なお、この数値は、北部に限定すると 1 万 9,843 バーツに下がる。

図 3 は、昨年⁹の政府からの補助金額を示したものである。

約 70%の寺院は、政府からの補助金収入がない。

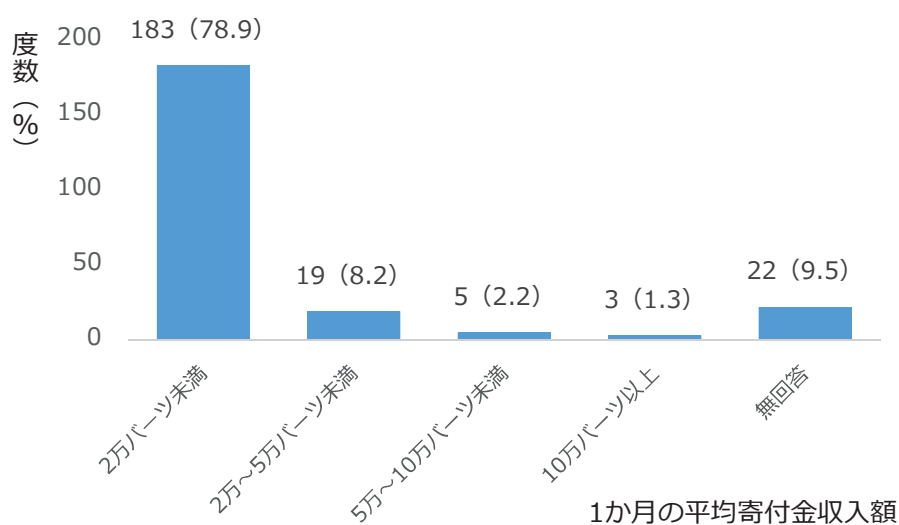


図 2 1 か月の平均寄付金収入額

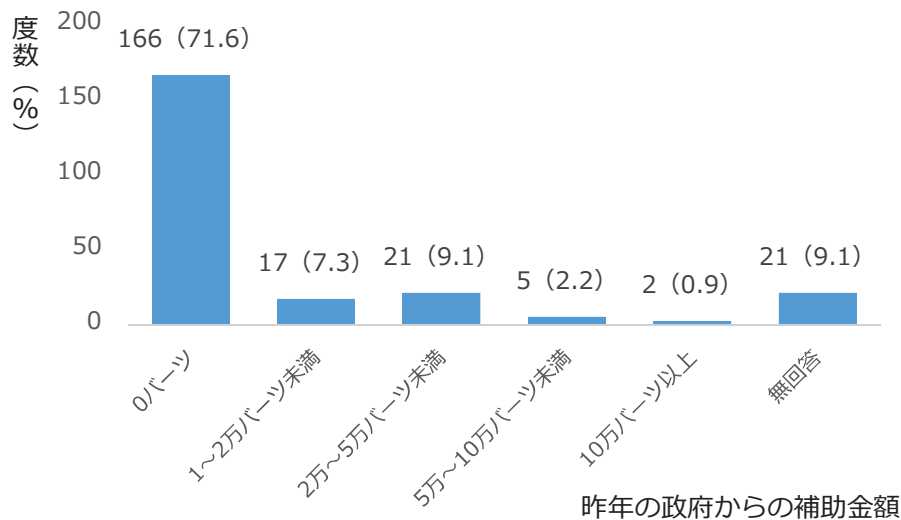


図3 昨年の政府からの補助金額

3.2 寺院の活動

寺院がどのような活動をどれほど行っているかについて、①社会福祉に関する活動、②教育に関する活動、③宗教に関する活動に分けて集計の結果を示す。

①社会福祉に関する活動（図4）

まず、これらの16項目の活動について、「3. 物品日用品の貸し出し」、「6. 高齢者の保護」、「9. インフラ整備」、「13. 環境保護」、「15. 人々への集会場所の提供」の5項目以外の活動は、「活動を行っていない」という回答が最も多かった。

しかしながら、「5. 遺児の保護」、「8. 障害者の保護」、「10. 伝統医療行為」、「11. 争いごとの調停」、「16. 動物の供養」の5項目については、「活動を行っていない」という回答以外を一括りに「活動を行っている」とすると、「活動を行っている」という回答が「活動を行っていない」という回答を上回る結果となった。

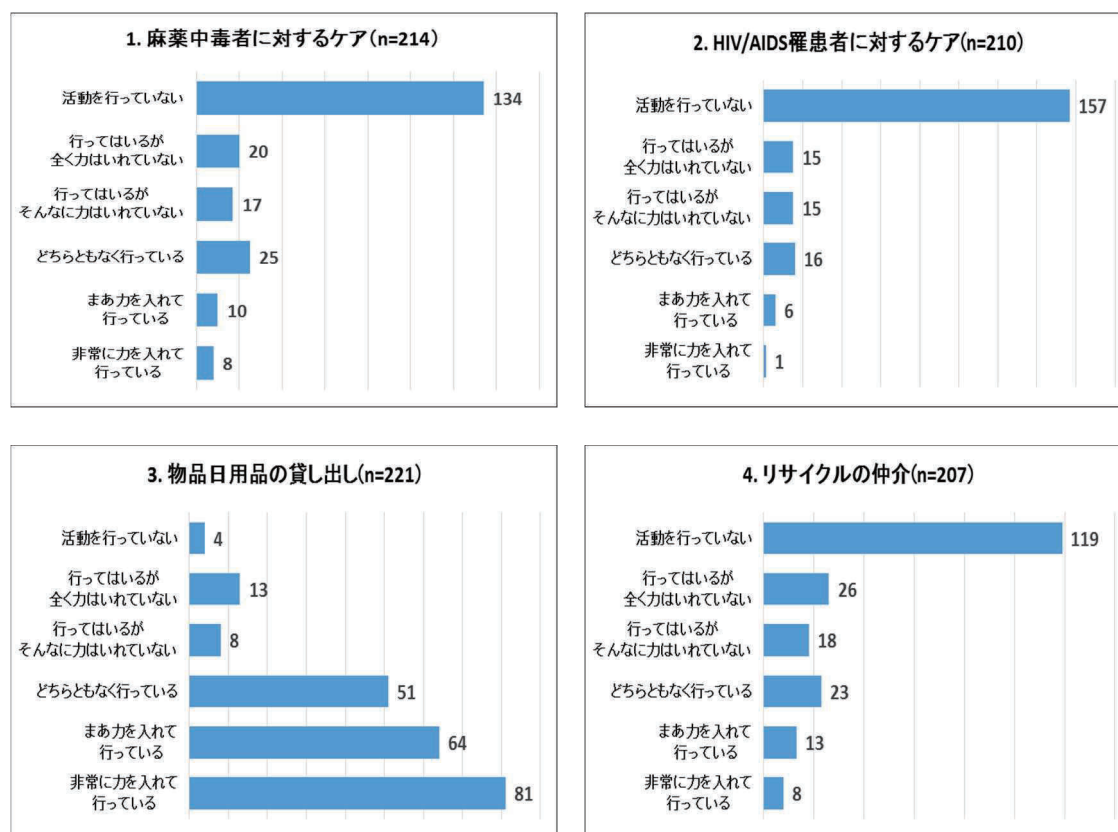
つまり、「1. 麻薬中毒者に対するケア」、「2. HIV/AIDS 罹患者に対するケア」、「4. リサイクルの仲介」、「7. 難民の保護」、「12. 終末期のケア」、「14. 米銀行、水牛銀行」の6項目は、寺院の社会福祉に関する活動として、他の活動に比して一般的ではないと言える。HIV/AIDS 罹患者を受け入れ、生活再建のため、道徳律を核とした僧侶と病者のコミュニティを形成しているロブリー県のプラバートナンプ寺院の活動は、いくつかの研究で取り上げられており〔浦崎 2002、佐々木・櫻井 2013 など〕、まさに **good practice** と言える事例であるが、寺院の社会福祉活動としては特殊なケースであると言える。

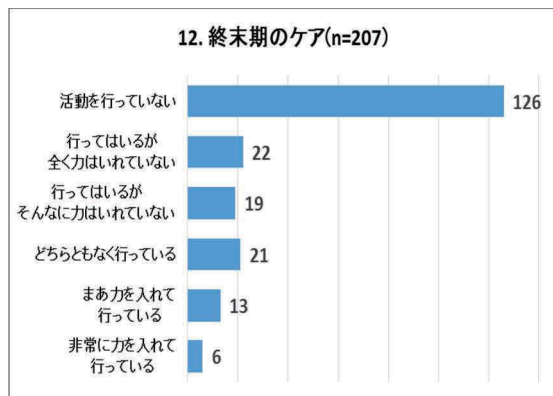
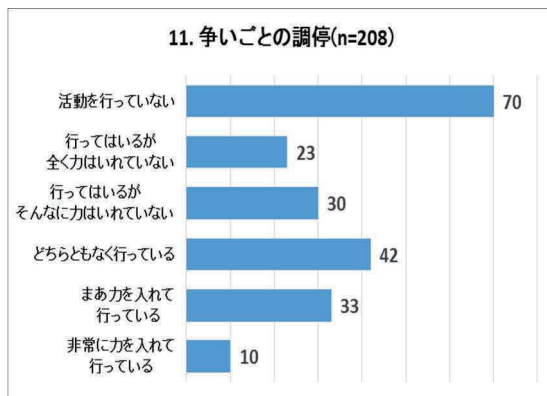
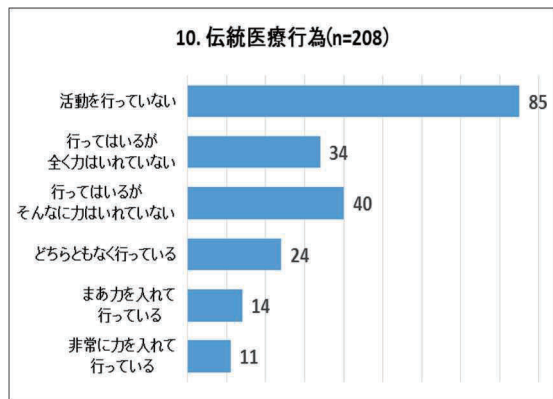
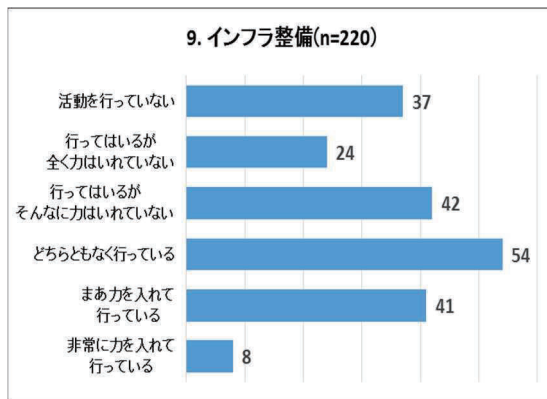
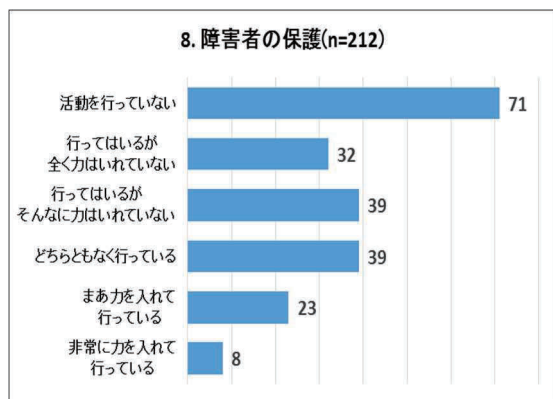
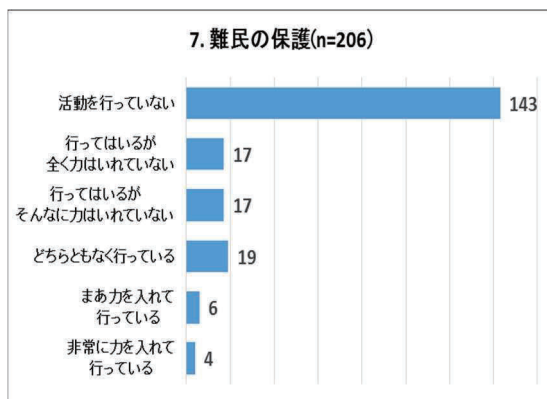
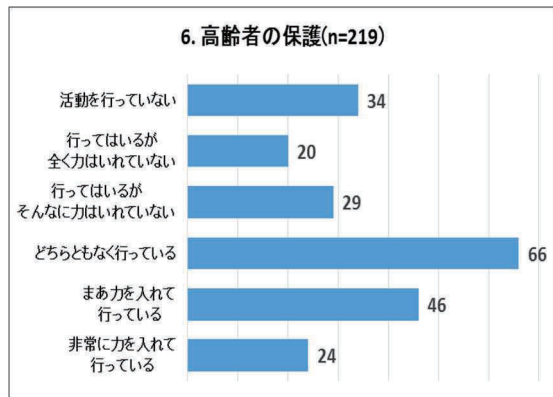
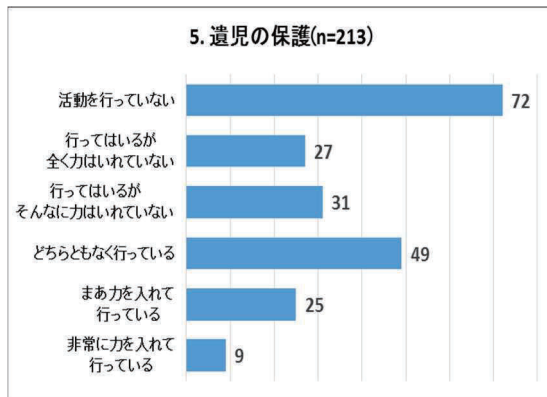
次に、「非常に力を入れて行っている」という回答が最も多かった項目について見ていく。「3. 物品日用品の貸し出し」は、「活動を行っていない」と回答したのがわずか4ヶ寺であり、145ヶ寺と60%を超える寺院が「まあ力を入れて行っている」または「非常に力を入

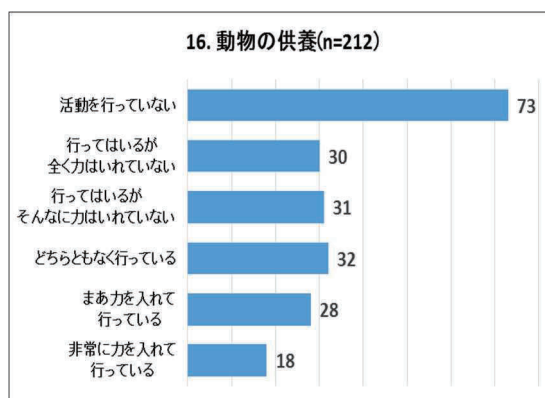
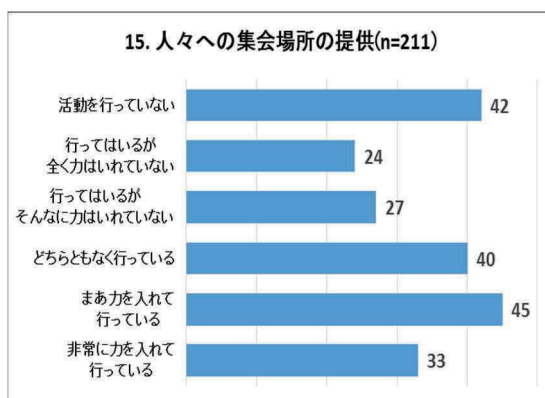
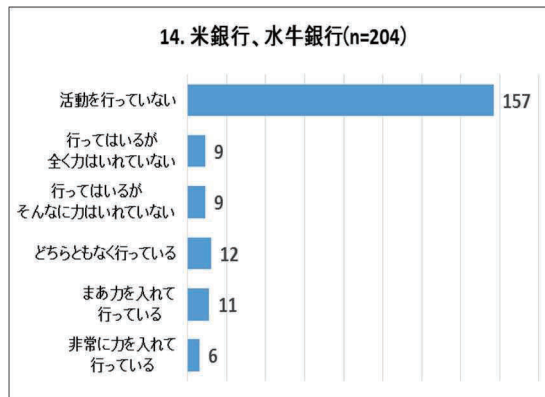
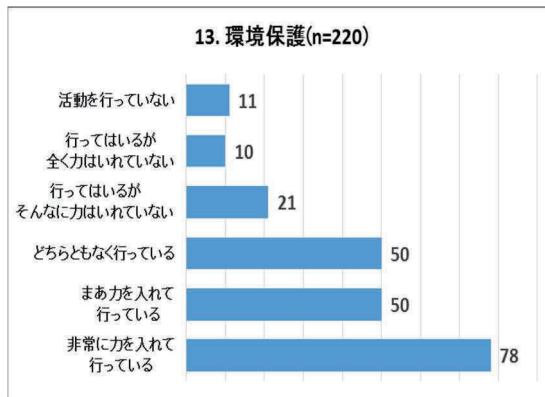
れて行っている」と回答している。「13. 環境保護」もそれに似た傾向を持っているが、「3. 物品日用品の貸し出し」に比べると、若干「活動を行っていない」という回答が増え、活動に対する力の入れ具合も小さい。これらの 2 項目は、寺院の社会福祉に関する活動として最も一般的であると言える。これらの活動に共通しているのは、他の活動と比べて活動にかかるコストが小さく、どの規模の寺院でも行えるということである。

「6. 高齢者の保護」、「9. インフラ整備」、「15. 人々への集会場所の提供」は、「活動を行っていない」という回答の寺院が一定数見られるものの、「どちらともなく行っている」、「まあ力を入れて行っている」という回答がより多く見られる。これらの項目の共通点は、コミュニティセンターとしての寺院の伝統的な役割である点である。

図 4 社会福祉に関する活動状況（項目 1.～16.）







②教育に関する活動（図 5）

これらの 11 項目の活動のうち、「10. 奨学金の支給」以外の活動については、「活動を行っていない」と回答した寺院が最も多かった。

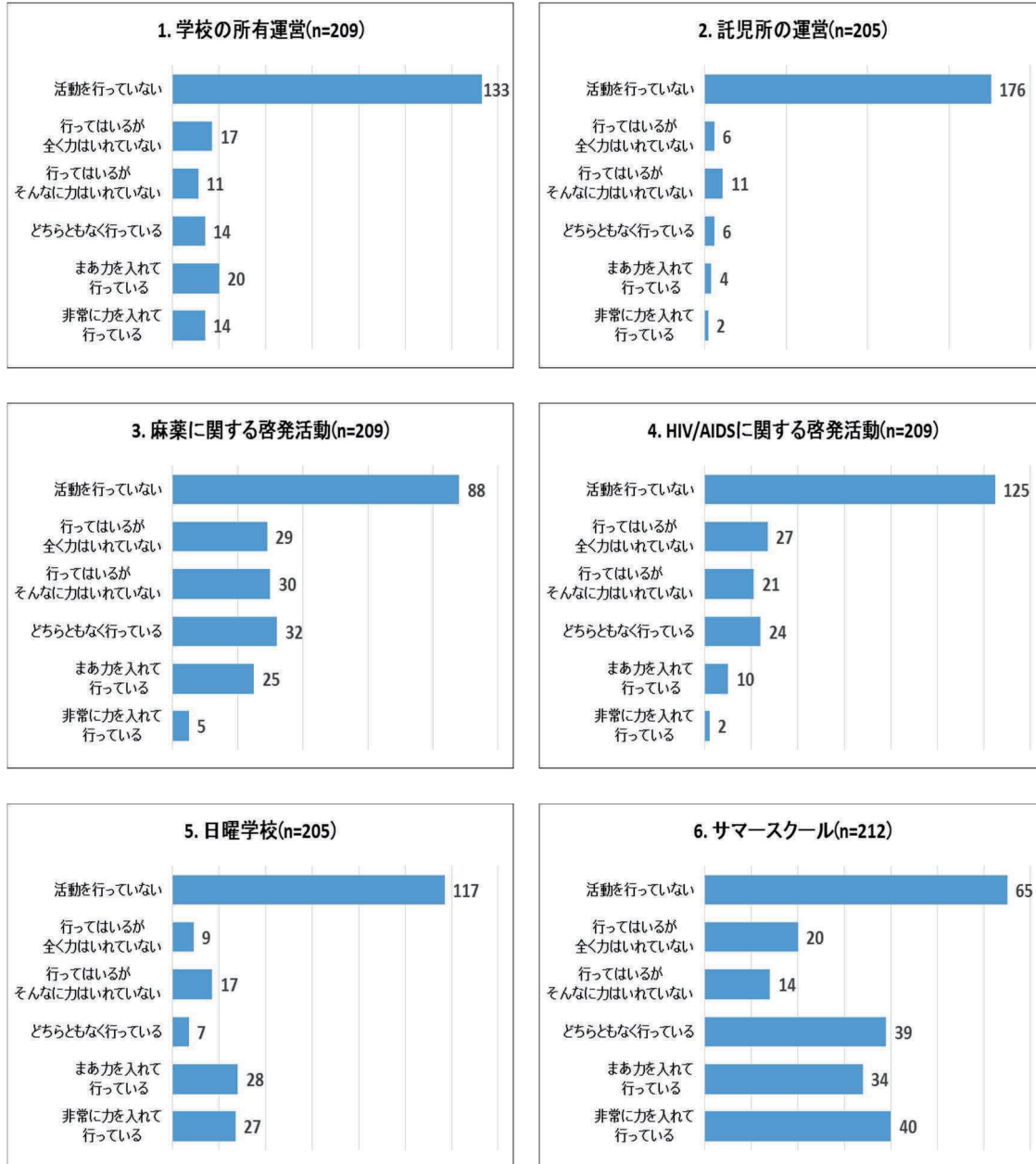
「活動を行っていない」という回答以外を一括りに「活動を行っている」とすると、「3. 麻薬に関する啓発活動」、「6. サマースクール」、「8. 僧の仏教の教育」、「9. 一般中等教育での仏教教育」、「11. 職業訓練」の 5 項目については、「活動を行っている」という回答が「活動を行っていない」という回答を上回る結果となった。

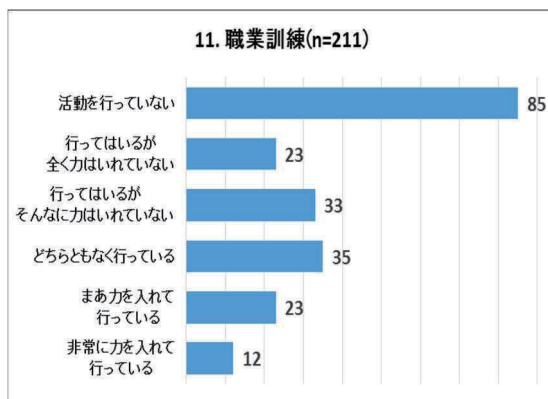
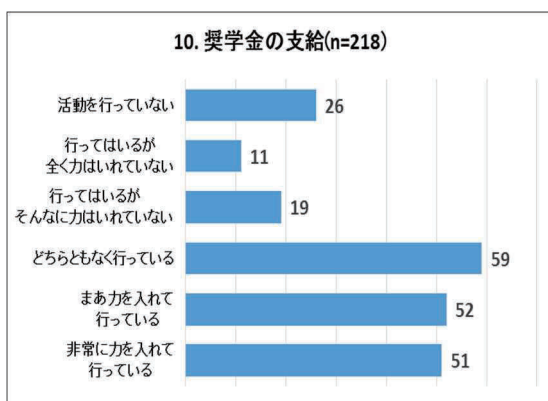
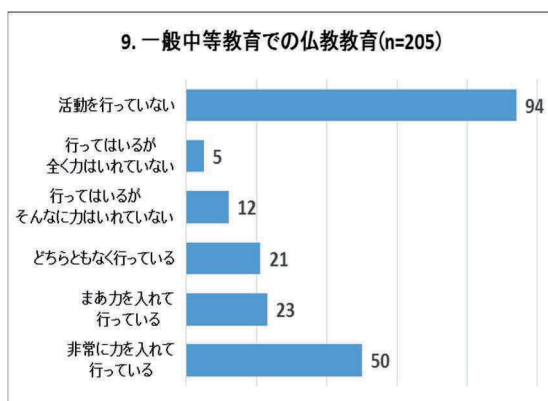
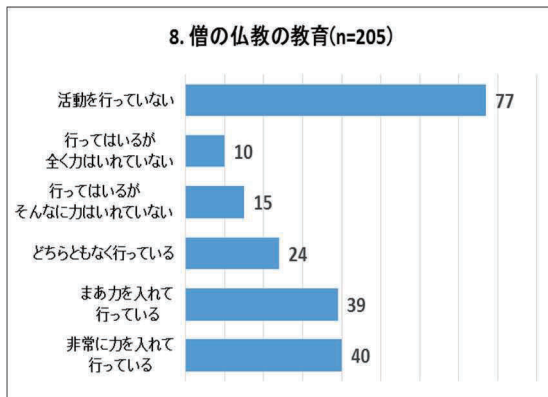
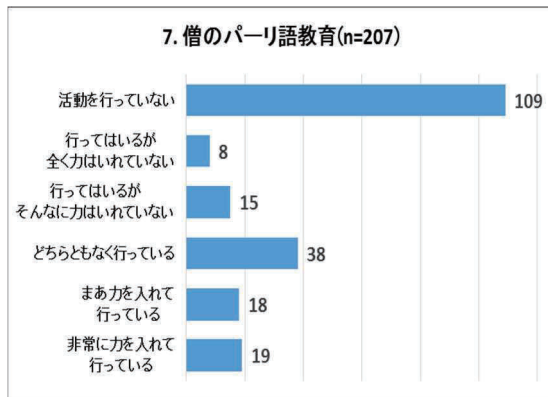
つまり、「1. 学校の所有運営」、「2. 託児所の運営」、「4. HIV/AIDS に関する啓発活動」、「5. 日曜学校」、「7. 僧のパーリ語教育」の 5 項目は、寺院の教育に関する活動として、他の活動に比して一般的ではないと言える。

「10. 奨学金の支給」は、「どちらともなく行っている」という回答が最も多く、「まあ力を入れて行っている」、「非常に力を入れて行っている」がそれに続く回答数となった。約 75% の寺院が普通以上に力を入れて行っている活動であると言え、寺院の教育に関する活動としては、最も一般的であると考えられる。

「6. サマースクール」、「8. 僧の仏教の教育」、「9. 一般中等教育での仏教教育」は、「非常に力を入れて行っている」という回答が「活動を行っていない」という回答の次に多く、活動を行っている寺院と行っていない寺院で二極化する傾向が見られる。

図 5 教育に関する活動状況（項目 1.～11.）





③宗教に関する活動（図 6）

これらの 10 項目の活動のうち、「活動を行っていない」という回答が最も多かったのは、「5. 仏教に関する本の出版」、「6. 説法が収録された CD の作成」、「9. お守りや amulet の販売」の 3 項目であった。

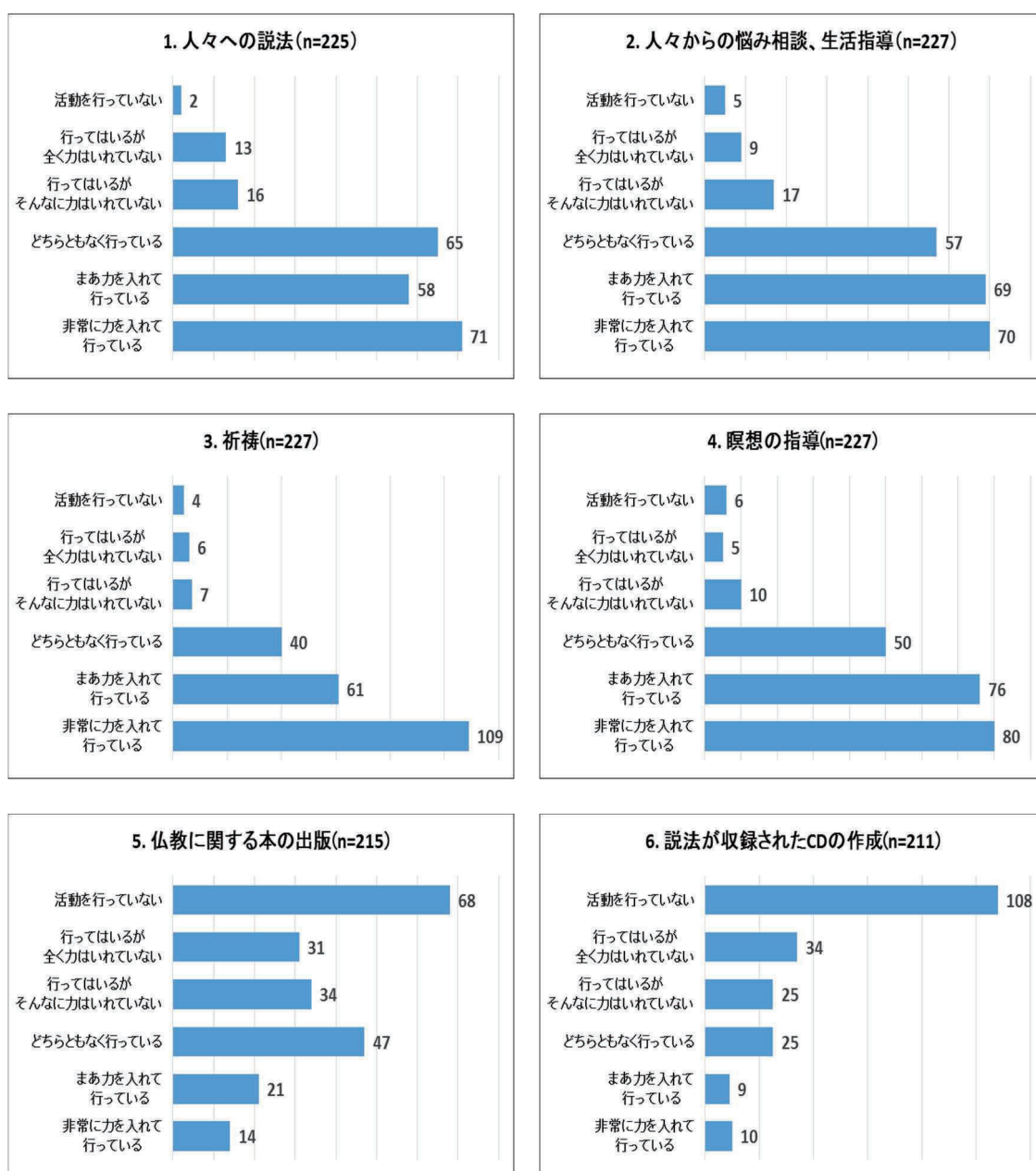
しかし、「活動を行っていない」という回答以外を一括りに「活動を行っている」とした場合、それらの 3 項目は、「活動を行っている」という回答が「活動を行っていない」という回答を上回るか、その比率がほぼ同程度であった。

つまり、これらの 10 項目は、項目により差はあるが、寺院の宗教に関する活動としてい

ずれも一般的であると言える。

なお、「活動を行っていない」という回答が最も多かった「5. 仏教に関する本の出版」、
「6. 説法が収録されたCDの作成」、「9. お守りや amulet の販売」の3項目は、いずれも
物の売買に関する活動であるという共通点を持つ。戒律の遵守を徹底する上で、営利的な行
為を禁じている寺院が多いとも考えられる。

図6 宗教に関する活動状況（項目1.～10.）



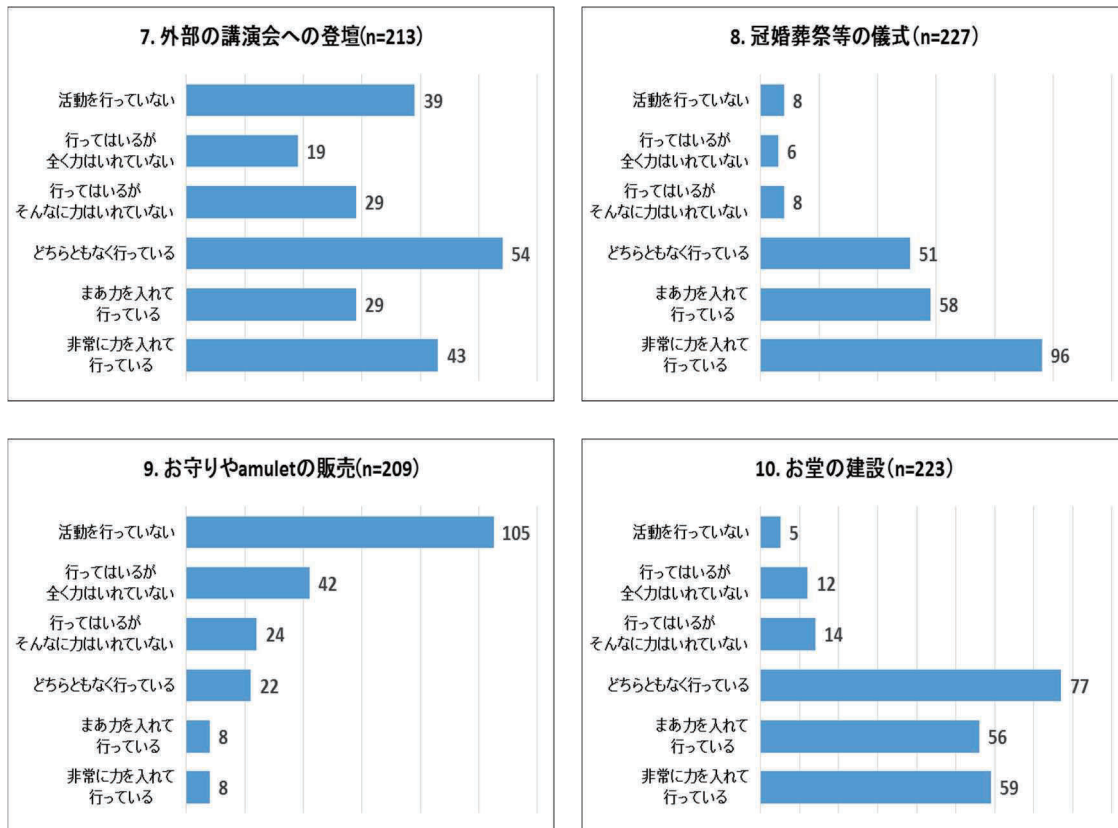


図 7 は、寺院が社会福祉活動を行う上での取り組みの主体について示したものである。

社会福祉活動の取り組みの主体としては、僧侶全体という回答が約 40%と最も多いものの、一人の僧侶や数名の僧侶のグループが中心となるケースも一定数存在することが分かる。good practice は、傑出した僧侶による実践である場合が多いが、そもそも、多くの寺院において在籍する僧侶の数が少数であるので、必然的に一人の僧侶が中心となるという回答は増えることが予想される。結果を見る限りでは、一人の僧侶が中心となるケースは、全体としてはそこまで多くはないと考えられる。

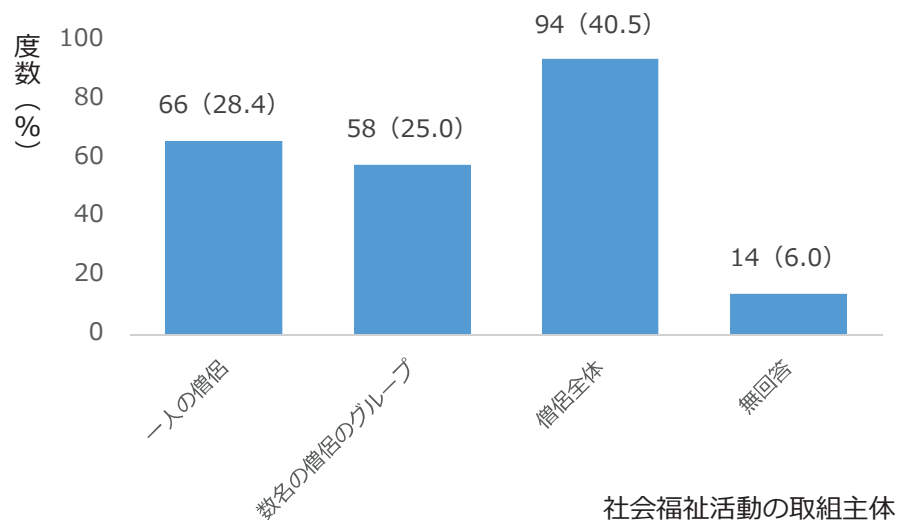


図 7 社会福祉活動を行う上での取り組みの主体

4. おわりに

本稿では、タイの仏教寺院における社会福祉活動の実態を捉えるために、特定の寺院に焦点を当てる従来のアプローチを避け、チェンマイ県の全ての寺院に対して質問紙を用いた量的調査を実施した。

その結果、僧侶の数や所有する土地の広さ、平均寄付金収入額など、寺院の基本的な情報について、一般的な寺院がどのような傾向にあるかが示された。また、寺院の社会福祉活動について、本稿が得た結果は次のように要約される。

- (1)「物品日用品の貸し出し」、「環境保護」は、寺院が行う社会福祉活動としては最も一般的である。
- (2)「高齢者の保護」、「インフラ整備」、「人々への集会場所の提供」は、「活動を行っていない」という回答の寺院が一定数見られるものの、「どちらともなく行っている」、「まあ力を入れて行っている」という回答がより多く見られ、多くの寺院が比較的活動に力を入れていることが観察された。
- (3)「遺児の保護」、「障害者の保護」、「伝統医療行為」、「争いごとの調停」、「動物の供養」は、「活動を行っていない」という回答以外を一括りに「活動を行っている」とすると、「活動を行っている」という回答が「活動を行っていない」という回答を上回る結果となった。力の入れ具合は別として、活動を行っていない寺院よりは活動を行っている寺院の方が多く項目である。
- (4)「麻薬中毒者に対するケア」、「HIV/AIDS 罹患者に対するケア」、「リサイクルの仲介」、「難民の保護」、「終末期のケア」、「米銀行、水牛銀行」は、寺院の社会福祉活動としては一般的ではない。

- (5) 教育に関する活動は、「奨学金の支給」以外は「活動を行っていない」と回答した寺院が最も多く、社会福祉に関する活動に比べ、寺院の活動としては一般的に行われるものではないということが分かった。
- (6) 宗教に関する活動は、物の売買に関わる活動である「仏教に関する本の出版」、「説法が収録された CD の作成」、「お守りや amulet の販売」以外は、いずれも寺院の活動として非常に一般的である。宗教行為を寺院が行うことは当然であり、社会福祉に関する活動を熱心に行う寺院もそうでない寺院も、宗教に関する活動には熱心である。

筆者は、good practice と言える麻薬中毒者や HIV/AIDS 罹患者に対するケアを行う寺院を訪れた経験があるが、本稿の結果を考慮すると、それは寺院が行う社会福祉活動としてはやや特殊なケースであったと言える。そのため、活動が有名になりやすく、タイの寺院の社会福祉活動としてステレオタイプなイメージが作られる恐れがあるが、本稿の結果は、それが断片的な姿であることを示している。

最後に、本稿の課題とすべき点は、少なくとも 2 つ挙げられる。1 つ目は、本稿で行った調査はチェンマイ県を対象としたものであり、その結果がタイ全体の寺院の傾向を表すとは限らない点である。チェンマイ県は、他県に比して寺院の数が多く、今日では仏教大学も設置されている。そういったことの影響が調査結果には反映されている可能性が存在するということは、念頭に置かなければならない。

2 つ目は、寺院が行うそれぞれの社会福祉活動の質を計測できていない点である。本稿における調査では、寺院による様々な社会福祉活動の熱心さを同一の尺度で計測しており、それは回答者の主観に依存するものであった。そのため、客観的な計測を行った場合では、X 寺院の「行っているが全く力を入れていない」と、Y 寺院の「非常に力を入れて行っている」が同程度の活動である、という可能性は常に存在する。

今後は、異なる対象で調査を重ね、今回の結果をより精緻に検証していくことが必要である。

参考文献

- 浦崎雅代 2002 「多様化する開発僧の行方—HIV/エイズ・ケアに関わる開発僧の出現を事例として」『宗教と社会』(8) : 79-92.
- 2013 「瞑想と生きる実践——生きにくさに寄り添う」『タイ上座仏教と社会的包摂 ソーシャル・キャピタルとしての宗教』明石書店.
- 櫻井義秀 2008 『東北タイの開発僧 宗教と社会貢献』梓出版社.
- 佐々木香澄、櫻井義秀 2013 「タイ上座仏教寺院と HIV/エイズを生きる人々」『タイ上座仏教と社会的包摂 ソーシャル・キャピタルとしての宗教』明石書店.
- スチャリクル・ジュタティップ、櫻井義秀 2013 「タイにおける洪水問題と寺院の社会活動」『タイ上座仏教と社会的包摂 ソーシャル・キャピタルとしての宗教』明石書店.

- Darlington, Susan M. 1990 *Buddhism, Morality and Change: The Local Response to development in Northern Thailand*, a Ph.D. Dissertation, University of Michigan, UMI.
- Keyes, Charles F. 1971 “Buddhism and National Integration in Thailand”, *Journal of Asian Studies* 30(3) : 551-567.
- 1975 “Buddhism in a Secular City: A View from Chiang Mai”, *Visakha Puja* B.E. 2518 : 62-72.
- Somboon Suksamran 1988 “A Buddhist Approach to Development: The Case of ‘Development Monks’ in Thailand”, in Lim Teck Ghee (ed.) *Reflections on Development in Southeast Asia*, Singapore: Institute of Southeast Asian Studies : 26-48.
- Pinit Lapthananon 1986 *Botbat phrasing nai kan phatthana chonnabot*, Bangkok: Sathaban wicai sangkhom, mahawitthayalai Chulalongkorn. (『地方開発における僧侶の役割』 バンコク : チュラーロンコーン大学社会調査研究所)

¹ 国家統計局のホームページ (<http://web.nso.go.th/index.htm>、2017 年 9 月 20 日取得) から、各省庁の発表した統計データを参照することができる。

² 開発僧 (*phra nak phatthana*) とは、僧侶を意味するプラ (*phra*) と、開発ワーカーを意味するナック・パッタナー (*nak phatthana*) とを組み合わせて作られた言葉であり、仏法に基づく独自の開発活動を通じて、地域社会の問題解決に取り組んだ僧侶たちを指す [Pinit 1986, Somboon 1988]。

³ 国家仏教事務局のホームページ (<http://www.onab.go.th/>、2017 年 9 月 9 日取得) を参照。

⁴ サンガ (*Sangha*) とは、仏教における出家者集団を指す。つまり、世俗を離れ、出家者としての戒律を持し、仏法を継承伝授し、修行生活を行う集団のことである。

⁵ サーマネーン (*samanera*) とは、具足戒を受ける前の通常 20 歳未満の男性出家僧を指す。ネーンと略称される。

⁶ メーチー (*maechi*) とは、寺院内に居住して出家者に準じた修行生活を送る俗人女性を指す。

⁷ ライ (*rai*) とは、タイにおける土地面積を表す単位で、1 ライは、1,600 平方メートルである。

⁸ newsclip のホームページ (<http://www.newsclip.be/article/2017/12/17/34981.html>、2018 年 9 月 16 日取得) を参照。

⁹ 調査時点の昨年であるので、2016 年を指す。